

# 重伝建指定を目指して 歴史的街並みを照らす竹あかり

代表者 入口 莉帆 (経済学部経済学科2年)

## 1. 目的と概要

この事業は、香川県多度津町の歴史的建造物が立ち並ぶ旧本町筋において、竹あかりを展示することを通して、旧本町筋が重要伝統的建造物保存地区に選定されることを推進し、まちの活性化につなげることを目的としている。また、毎月開催する竹あかりイベントへの参加を通じて、多くの多度津町民に、私たち香川大学たどつまち Labo を認知してもらい、より地域に根差した団体になることを目的としている。

現在、多度津町では国の文化財である重要伝統的建造物群保存地区に「多度津町本町」地区が選定されることを目指して取り組みが推進されている。そして、その取り組みをさらに進めるするために、旧本町筋では「第4土曜は！本町デー」というイベントが毎月開催されている。私たちは多度津町でプロジェクト活動を行うなかで、多度津町旧本町筋のまち並みが歴史を身近に感じられる趣のある場所だと実感している。そこで、第4土曜は！本町デーのなかで「竹あかりの展示」と「竹あかりのワークショップ」を行い、旧本町筋のレトロなまち並みの魅力の向上に取り組んできた。

## 2. 実施期間（実施日）

令和5年7月31日から令和6年3月31日まで

令和5年8月26日、9月23日、10月28日、11月25日、12月23日

令和6年1月27日、2月24日、3月23日 計8回実施

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

この事業では、毎月第4土曜日に旧本町筋で行われる第4土曜は！本町デーに計8回参加し、竹あかりの展示とワークショップを実施した。また、イベントに参加するにあたり、毎月行われる事前ミーティングに参加した。

### (1) 竹あかりの展示

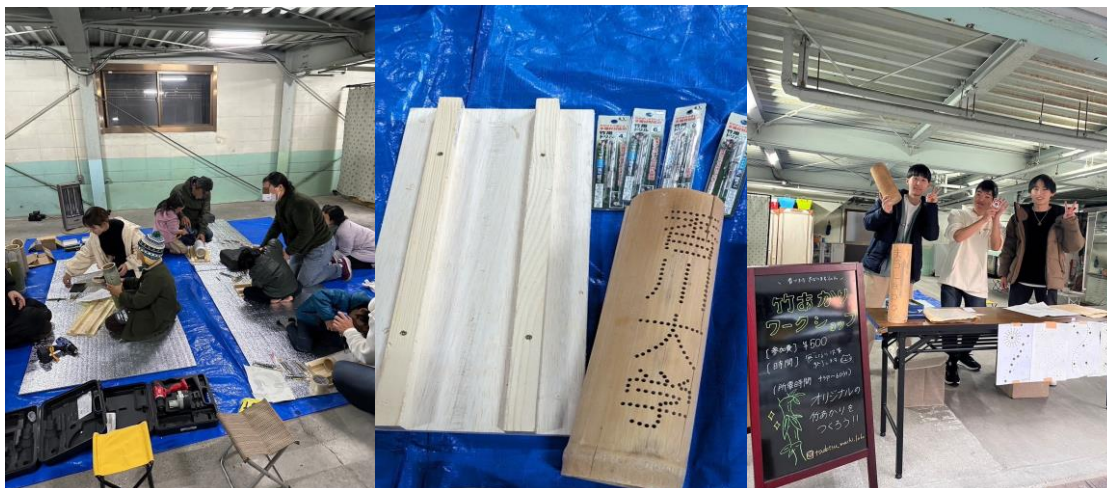
7～12月に開催された第4土曜は！本町デーにおいて、旧本町筋沿いに約300本の竹あかりを展示し、伝統的な街並みを照らしました。また、1月～3月には旧本町筋にあるスペースの一角において、竹あかりのオブジェを設置することでイベント開催に貢献できた。この竹あかりの展示とその方法について、毎回、プロジェクトメンバーで意

見を出し合い議論することを通じて、企画力や思考力が身につき、プロジェクトの団結力を強めることができた。また、地域のみなさんと協力してイベントを開催することで、交流を深めることができた。



## (2) 竹あかりを作るワークショップ

10月～3月にかけて竹あかりを作成するワークショップを実施した。主に対象を親子向けとして行い、穴を開ける竹の選定から、電動ドリルを用いた穴あけ、仕上げのやすり掛けまで、大学生が補助しながら親子で協力して竹あかりを作成した。このワークショップは地域住民だけでなく、高松や丸亀など、多度津町外からもお越しいただき、地域内外の方々との交流の場を創出することができた。



## (3) 事前ミーティングへの参加

第4土曜は！本町デーの開催にあたり、毎月、イベントスタッフが一堂に会する事前ミーティングが毎月第2木曜日に開催された。この事前ミーティングでは、毎回、前月に行われたイベントの改善点や当月に行うイベント内容について話し合った。このプロセスを通じて、ミーティングに参加しているみなさんからアドバイスやご提案をいただき、私たちの展示内容をブラッシュアップすることができた。また、地域のみなさんと関わる機会が増え、コミュニケーション能力や積極性を育む機会となった。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、地域住民のみなさんと交流を深め、関係を築くことができた。また、実際に地域で学生が主体となり事業を行うことで、香川大学の掲げる「地域に根差した学生中心の大学」という理念について、地域社会に認識してもらうことにつながった。さらに、地域活性化に興味・関心を持った行動力のある学生が多く在籍する大学というイメージを地域住民に持ってもらうことができた。これらのことを通じて、地域と大学の関わりを深めることにもつながった。

地域社会に与えた影響については、第4土曜は！本町デーに参加し、展示やワークショップを行うなかで、地域住民と地域住民、また地域住民と大学生のコミュニケーションの場を創出し、人と人とのつながりを生み出すことができた。また、旧本通り筋沿いに竹あかりを展示することで、伝統的なまち並みという地域の魅力をより際立たせ、活気を創り出すことにつながった。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業を実施するなかで、学外の関係者とやり取りする機会が多かったことから、社会人として必要になるマナーの学習の機会になった。展示やワークショップにおいて、子供から大人、ご高齢者まで幅広い年代の方々との関わりが増え、社交性やコミュニケーション能力が身につき、積極的に行動できるようになった。

また、多度津町に赴く機会が増えたことで、多度津町への愛着が強くなり、地域活性化へのモチベーションが上がった。多度津町の伝統的なまち並みの魅力を感じ、他の地域のまち並みも気にかけるようになり、それぞれの地域が取り組むまちづくりについて関心を持つきっかけとなった。

さらに、竹あかりの展示の仕方やワークショップで用いるデザインを改善していくなかで、課題解決能力が育まれた。その際、メンバーで案を出し合い、物事を決定する過程はグループディスカッションの機会となり、協調性や団結力が生まれ、とても有意義な機会となった。

#### 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今後の課題としては、2点あげることができる。1点目は竹あかりワークショップについて、型紙が難しく、子供やご高齢者が穴を開けるのに時間がかかってしまったことである。大学生が積極的に補助することで解決したが、型紙の難易度を下げることや土台となる竹を小さくすることなど、さらに工夫していく必要がある。2点目は展示で使用している竹あかりが割れたり、古くなったりして、使えなくなっていることである。そのため、新たに竹を伐採して展示で使える竹あかりを増やしていく必要がある。使えなくなった竹はただ捨ててしまうのではなく、有効活用する予定である。具体的には竹炭にして活用していくことを検討中である。

この活動を通して、メンバー自身も多度津町のまち並みの魅力を再発見できる機会となった。今年度は多度津町本町が重要伝統的建造物群保存地区に認定されることはかなわなかったが、引き続き、来年度もこの活動を継続していきたい。

## 7. 実施メンバー

代表者	入口 莉帆 (経済学部 2年)	
構成員	石村 英理 (経済学部 3年)	石原 優希 (経済学部 3年)
	有本 芽生 (経済学部 3年)	久米井 美子 (経済学部 3年)
	小笠原 史織 (経済学部 3年)	田中 音羽 (経済学部 3年)
	佐々木 遥 (経済学部 3年)	三宅 雛菜 (経済学部 3年)
	森 向日葵 (経済学部 3年)	山口 真央 (経済学部 3年)
	前川 宏太 (創造工学部 3年)	安田 裕亮 (創造工学部 3年)
	松本 奈珠 (経済学部 2年)	石井 心 (経済学部 2年)
	藤谷 円花 (経済学部 1年)	赤川 颯 (経済学部 1年)
	古川 華 (経済学部 1年)	藤田 倫太郎 (経済学部 1年)
	玉置 涉 (農学部 1年)	坂本 椋野 (農学部 1年)
	藤田 源紀 (農学部 1年)	杵山 慎太郎 (創造工学部 1年)
	宮下 翔伍 (創造工学部 1年)	山本 凌平 (法学部 1年)
	田中 裕久 (法学部 1年)	

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		198,126円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
交通費			23,970	
交通費(ガソリンレギュラー)			15,228	
ボタン電池	70	648	45,360	1パック5個
再生トップコンテナ	47	581	27,307	
LEDキャンドルライト	3	3,599	10,797	100個入り
インクカートリッジ	1		3,961	
麻ひも	3	483	1,449	
ほうき	1		2,079	ちりとり付
メニューボード	3	9,889	29,667	
のぼり	1		28,906	オリジナル
合計			188,724	